

「押し流されないように」

ヘブル書 2章1~4節

こういうわけです()ですから
私たちは、聞いたことを
ますますしっかりと、心に留め
押し流されないように
しなければなりません。

御使いたちを通して語られたみことばに
効力があり
すべての違反と不従順が
当然の処罰を受けたのなら

こんなにはばらしい救いを
ないがしろにした場合
私たちはどうして
処罰を逃れることができるでしょう。

この救いは
初めに、主によって語られ
それを聞いた人たちが、確かなものとして
私たちに示したものです。

そのうえ、神も

しるしと不思議と様々な力あるわざにより

また

みこころにしたがって

聖霊が、分け与えてくださる賜物によって
救いを証ししてくださいました。

1世紀に生きたヘブル書中のキリスト者も
21世紀に生きる私たちも
同じ信仰上の危険に、常に遭遇している。

それは、この世に「押し流される」
というそれであり、
十分に気をつけないといけない。

昔も今も、キリスト者が遭遇する危険

I. 「押し流されている」状態とは

II. 「押し流されている」理由とは

III. 「押し流されない」方法とは

1章

預言者・御使いに対する

イエス・キリストの優越性

2章 1〜4節

”ごういいうわけですから・・・“ は
括弧・挿入

2章 5〜8節

御使いに対する

イエス・キリストの優越性

I. 「押し流される」とは

こういふわけですから

私たちは、聞いたことを

ますますしっかりと心に留め

押し流されないように

しなければなりません。

「押し流される」

指輪が指から、抜け落ちる

食べていたものをあやまってこぼす

思わず、話してしまう

洩（漏）れる

不注意!

「押し流される」

水夫が

不注意!

風向きや潮流に対する

注意を怠ったため

船が、港や停泊地から

漂流してしまう

「押し流されている」状態とは

力を必要としない

気がつかない

ゆっくりと、少しずつ、徐々に

流れに、逆らわない

「押し流されている」状態とは

その内、流れは、加速する

最終的に、難船・破船する



こういうわけで
私たちは、聞いたことを
ますますしっかりと心に留め
押し流されないように
しなければなりません。

(詳訳)

こういうわけで
私たちは、教えられたことがらに
人生の錨をおろし
「人生」という船が
港から、押し流されて
破船しないように
しなければなりません。

こういうわけで
私たちは、聞いたことを
ますますしっかりと心に留め
押し流されないように
しなければなりません。

(詳訳)

こういうわけで
私たちは、教えられたことがらに
人生の錨をおろし
「信仰」という船が
港から、押し流されて
破船しないように
しなければなりません。

Ⅱ. 「押し流される」理由

こういっつわけですから)

私たちは、聞いたことを

ますますしっかりと、心に留め

押し流されないように

しなければなりません。

こううつわいで)ですから

私たちは、聞いたことを

ますますしっかりと、心に留め

押し流されないように

しなければなりません。

- ① キリストは、創造者
- ② キリストは、神の栄光の輝き
- ③ キリストは、神の本質の完全な現れ
- ④ キリストは、万物の保持者
- ⑤ キリストは、あがないの主
- ⑥ キリストは、復活し、昇天
- ⑦ キリストは、神の右に着座
- ⑧ キリストは、執りなし手

こううつわいで)ですから

私たちは、聞いたことを

ますますしつかりと、**じい留め**

押し流されないように

しなければなりません。

不熱心



熱心

不注意·不真面目 ↔ 真面目

怠慢



勤勉

輕視



重視

聞 = 門 + 耳

聽

聽

耳の下の王は、
つま先で立つ人を横から見た形

聖 = 耳 + 口 + 王

口 = 祝詞 (のりと) を入れる器

王 = つま先で立つ人

(意味)

神に祈り、耳を澄ませ、

神のことばを聞くことができる人

聖 = 耳 + 口 + 王

口 = 神のことば、メッセージ

王 = みことばを慕い求める人

(意味)

神のことばを、慕い求める人の姿
聖書は、きよい書物だけでなく、
みことばを慕い求める人の書物

…

あなたはよく忍耐して

わたしの名のために耐え忍び

疲れ果てなかった。

けれども、あなたには責めるべきことがある。

あなたは、初めの愛から、離れてしまった。

だから、どこから落ちたのか、思い起こし

悔い改めて、初めの行いをしなさい。

本日のすすめ

- ① 後退は、ゆっくり、気がつかない内に、始まっている
- ② 世の流れに押し流されないように気をつけたい
- ③ 世の流れに抗し、キリストに向かって前進したい
- ④ みことばに、熱心に、真面目に、向き合いたい